

【臨床指標 3】初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

●解説

現在、日本で最も罹患率の高い5つのがん（胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・肝がん）の病期（Stage）ごとの症例数を集計したものです。がんの症例数を調べることで、その病院がどの程度がん治療に積極的に治療をしているかを知ることができます。また病期分類別にみることで、その病院の診療の幅広さを知ることができます。

当院では、化学療法が外来で行なわれていることから、入院における胃がん、大腸がん、乳がんの再発治療が少なくなっています。また、肺がんではStageⅣの症例が多いことから、重症の患者が多いことが分かります。

なお、検査入院においてがんの確定に至らない場合のStageは不明となっています。

※ 病期(Stage)とは、がんの進行状態を示すものであり、0期からⅣ期の5つに分類されます。0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態であり、Ⅳ期に近いほどがんが広がっている状態となります。

5大がん	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃がん	54人	19人	34人	45人	20人	25人
大腸がん	40人	28人	66人	31人	31人	40人
乳がん	42人	46人	11人	5人	4人	28人
肺がん	52人	15人	51人	89人	81人	94人
肝がん	15人	11人	5人	6人	23人	75人

※Stageは癌取り扱い規約に基づく